

リサイクル実績

店舗から発生する食品廃棄物（未利用食品）	2011年度			2012年度		
	排出量 (t)	リサイクル量 (t)	リサイクル率 (%)	排出量 (t)	リサイクル量 (t)	リサイクル率 (%)
生鮮食品の調理クズ（野菜果物など）、賞味期限切れや飲食の食べ残し	14,174	6,436	45.4%	14,200	6,850	48.2%
魚のアラ（魚介類の調理クズや内臓・骨）	3,177	2,841	89.4%	2,521	2,212	87.7%
廃食用油（使用済み揚げ油）	1,371	1,371	100.0%	1,394	1,394	100.0%
てんかす（フライやテンプラなどの揚げカス）	1,221	164	13.4%	974	418	42.9%
合計	19,944	10,812	54.2%	19,089	10,874	57.0%

※端数を四捨五入しているため、合計数値と一致しない場合があります

食品リサイクルの歩み

2001年に食品リサイクル法が施行されるにあたって、ユニーでは各地で「地域循環」を目指し、できるだけ環境負荷の少ないリサイクルの構築に努めてきました。

2000年

- 福井市で地域循環堆肥へのリサイクルに取り組む
- 名古屋市内店舗に熱乾燥処理機導入（アビタ新守山店）

2001年

- アビタ福井大和田店が地域循環堆肥へのリサイクルに参加

2002年

- 茨城県で堆肥化リサイクルに取り組む
- 愛知県内3店舗に真空乾燥機導入（アビタ岡崎北店・アビタ東海荒尾店）

2003年

- 富山市内4店舗、富山エコタウンに参加（バイオガスによる発電）

2004年

- 長野県（アビタ伊那店）・奈良県（アビタ大和郡山店）の店舗に真空乾燥機導入
- 愛知県内3店舗で愛知経済連の協力により堆肥化および作物栽培・販売の実験開始
- 三重県で堆肥化リサイクルに参加（アビタ鈴鹿店）

2005年

- 三重県内で堆肥を使って栽培した作物の販売開始（アビタ松阪三雲店）
- 愛知県で2店舗（アビタ瀬戸店・アビタ江南西店）乾燥機導入

2006年

- 横浜市内3店舗が、店舗から排出した食品残さを飼料にして飼育した豚肉を販売する「横浜有機リサイクル」（登録再生利用事業者）に参加

2007年

- 愛知県刈谷市で構築した「食品リサイクルループ」が、1月に食品リサイクル法再生利用事業計画に認定される
- けやきウォーク前橋（アビタ前橋店）・アークウォーク大垣（アビタ大垣店）に真空乾燥機を導入

2008年

- 愛知県一宮市・稲沢市・江南市・豊山町にあるユニー・サークルKサンクスで取り組むリサイクルループが完成し、食品リサイクル法再生利用事業計画に認定される
- ラスバ御嵩（アビタ御嵩店）に真空乾燥機を導入

2009年

- 名古屋市内、春日井市内および瀬戸市内店舗から排出した食品残さを飼料にする取り組み「中部有機リサイクル」に参加
- 石川県・山梨県・三重県で地域の再生利用事業者や農業生産者とともに新たなリサイクルループを計画する
- 千葉県・埼玉県・山梨県・石川県でリサイクルループの取り組みを始める

2010年

- 三重県（三功）、神奈川県（横浜市有機リサイクル）、富山県（富山グリーンフードリサイクル）の既存リサイクルループを再生利用事業計画に申請。8月横浜市有機リサイクルが認定される
- 愛知県（中部有機リサイクル）のエコフィードで豚の飼育実験を実施
- 千葉県（プライトピック）では、コンビニエンスストアのサークルKサンクス・ファミリーマートとの共同でリサイクルループを構築。ユニーの関東地区で山崎製パンが製造した「エコフィードで育てた豚肉使用の惣菜パン」を販売

2011年

- 3月プライトピック・山崎製パンのリサイクルループが認定される。6月エコパークの惣菜パンをユニーとコンビニ2社で販売
- 6月三功のリサイクルループが認定される
- 愛知県・岐阜県（中部有機リサイクル）のリサイクルループを申請。岐阜県多治見市を組み込む
- 京都府（京都有機質資源）のリサイクルループを申請
- 京都府有機質資源のエコフィードによる鶏卵生産のリサイクルループが認定される
- 中部有機リサイクルで愛知県・岐阜県のリサイクルループが認定される

2012年

- 京都府有機質資源のリサイクルループに滋賀県・奈良県の店を加え、リサイクルループを完成させ、認定される
- 福井県坂井市の長谷川造園とJA花咲ふくいのリサイクルループを申請し認定される
- 新潟市の不二産業とJA新潟みらいのリサイクルループを申請し認定される
- 長野県飯田市のいっだ有機とJAみなみ信州のリサイクルループを申請し認定される

2013年

- 静岡県、山梨県のてんかす堆肥（静岡油化工業）でサツマイモを栽培するリサイクルループが認定される
- 埼玉県・群馬県のアイル・クリーンテックと地元農業者の角屋商店のリサイクルループを完成、認定される
- 茨城県・栃木県のむかしの堆肥と地元農業者のレインボー・フーチャーとのリサイクルループを完成、認定される
- 農水省からの補助金を受け、石川県のトスマク・アイとJA松任のリサイクルループに取り組み完成。認定されたことで1府18県下でのリサイクルループが完成
- 食品産業センターから食品産業優良企業等表彰「環境部門」において、農林水産大臣賞を受賞



福井環境事業の循環型農業



富山エコタウン「富山グリーンフードリサイクル」

食品リサイクルの実績

ユニーでは全店舗で廃棄物の分別計量を行うことにより、廃棄物の総排出量を毎年削減しています。食品廃棄物も商品の廃棄ロス削減に取り組み、毎年減少しています。また、リサイクル量に関しても、各地でリサイクルループの構築を推進し、2012年度には店舗所在地の1府18県で達成できました（福島県を除く）。

食品廃棄物の発生抑制およびリサイクルの推進を図り、未利用食品の「もったいない」をできるだけ少なくするように努めています。

食品リサイクルの推移

年度	廃棄物総量 (t)	食品廃棄物量 (t)	リサイクル量 (t)	リサイクル率 (%)
2008	90,560	21,436	7,561	35.3
2009	88,412	22,908	9,444	41.2
2010	85,735	21,210	10,378	48.9
2011	84,332	19,944	10,812	54.2
2012	80,803	19,089	10,874	57.0

発生抑制目標の設定

2012年、発生抑制の重要性が高い業種から先行して目標値が設定されました。当面は暫定目標値として実施されますが、食品関連事業者は食品廃棄物の単位当たりの発生量がこの目標値以下になるように努力が必要です。

発生抑制の目標値の例（2012年4月～2014年3月）

業種	業種区分	暫定目標値 (売上高百万円当たり)
食品製造業	肉加工品製造業	113kg
	パン製造業	194kg
	そう菜製造業	403kg
食品卸売業	すし・弁当・調理パン製造業	224kg
	食料・飲料卸売業 (飲料を中心とするものに限る)	14.8kg
食品小売業	食料・飲料卸売業 (飲料を中心とするものを除く)	4.78kg
	各種食料品小売業	65.6kg
	菓子・パン小売業	106.0kg
	コンビニエンスストア	44.1kg

※食品廃棄物の発生量と密接な関係を持つ値（売上高、製造数量等）当たりの発生量を、発生原単位（単位当たりの発生量）といいます。



エコ野菜売り場